気象庁が発表する噴火予報及び警報

●噴火警戒レベルは、火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を発表します。

●噴火警報は、危険が及ぶ範囲に応じて、「警戒が必要な範囲」と「規制や避難が必要な市町村」を明示して発表します。

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベルとキーワード			説明		
						火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応
特別警報	噴火警報（居住地域）又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5	避難		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している。	避難等が必要	
			レベル4	高齢者等避難		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。	高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要	
警報	噴火警報（火口周辺）又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	レベル3	入山規制		居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立ち入り規制等
		火口周辺	レベル2	火口周辺規制		火口周辺に影響を及ぼす	通常の生活	火口周辺への立入規制等
予報	噴火予報	火口内等	レベル1	活火山であることに留意		火山活動は静穏		特になし（状況に応じて火口内への立入規制等）。

（気象庁ホームページより、一部加工）

噴火しそうなとき、噴火が始まったとき

●噴火する兆候の情報が流れると、生活物資が入手困難になることが予想されます。
→1週間程度は生活できるよう、普段から備蓄をしておきましょう。

●神奈川県内に溶岩が到達する可能性は、火口位置がわかってから明確になります。
→溶岩流については、噴火前に過度に心配する必要はありません。

●火山灰を降らせる場合、噴火開始後数十分から2時間程度で、県内各地に降灰があり、鉄道や車両が利用できなくなる可能性があります。
→医療や介護の必要な人は、現在のサービスが受けられるかを調べて対策を検討してください。

神奈川県
富士山火山防災マップ（神奈川県版）に関する問合せ先
神奈川県くらし安全防災局防災部危機管理防災課　TEL 045-210-3465

神奈川県

神奈川県版

富士山 火山防災マップ

◆富士山は活火山です！

神奈川県の各地から望むことができる富士山は、今も地下深くではマグマが活動を続けている活火山です。

◆富士山ハザードマップが改定されたので、ご確認ください！

令和3年3月の富士山ハザードマップの改定により、神奈川県内にも溶岩流が到達する可能性が示されました。

神奈川県で特に注意すべき噴火に関する現象

▶溶岩流

撮影：神奈川県温泉地学研究所　萬年一剛　主任研究員

撮影：熊本大学　宮縁育夫教授

溶岩流とは、火口から流出した溶岩が地表を流れ下る現象で、比較的ゆっくりと流れ、冷えて粘性が増したり、市街地のように勾配が緩い地形では、人がゆっくり歩く程度の速度にまで低下します。
避難経路を確認しておき、地元自治体の指示に従って避難しましょう。

▶降灰

撮影：熊本大学　宮縁育夫教授

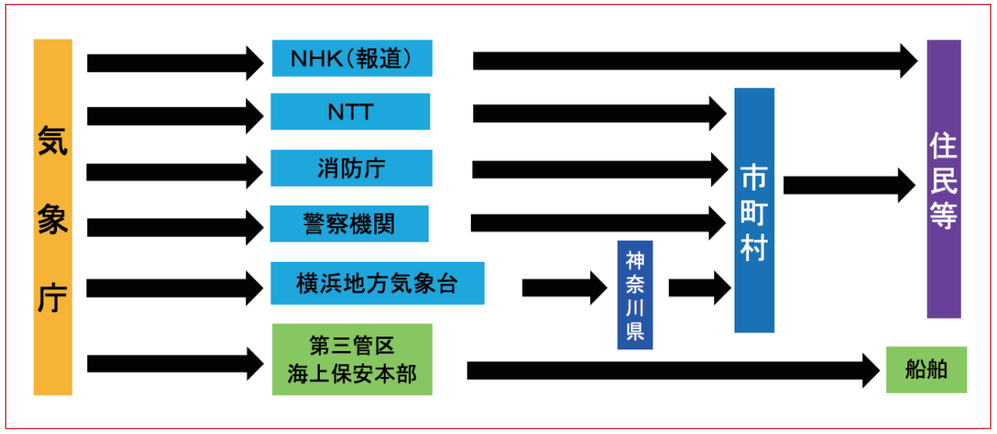
降灰は、火山が噴火しマグマなどが細かく砕けて火山灰となって降る現象です。火山灰が直接の原因となって人が死ぬようなことはありませんが、**呼吸器系の障害を引きおこすほか、大量に降り積もると家屋を押しつぶすことがあります。**

▶降灰後の土石流

撮影：神奈川県温泉地学研究所　萬年一剛　主任研究員

降灰により雨水が地面にしみ込みにくくなり、勢いを増した雨水が斜面を削って土砂や岩を取り込み発生する現象が、降灰後土石流です。
特に厚さ10センチメートル以上積もる地域では、何回も土石流が起こることがありますので、降雨時は注意が必要です。

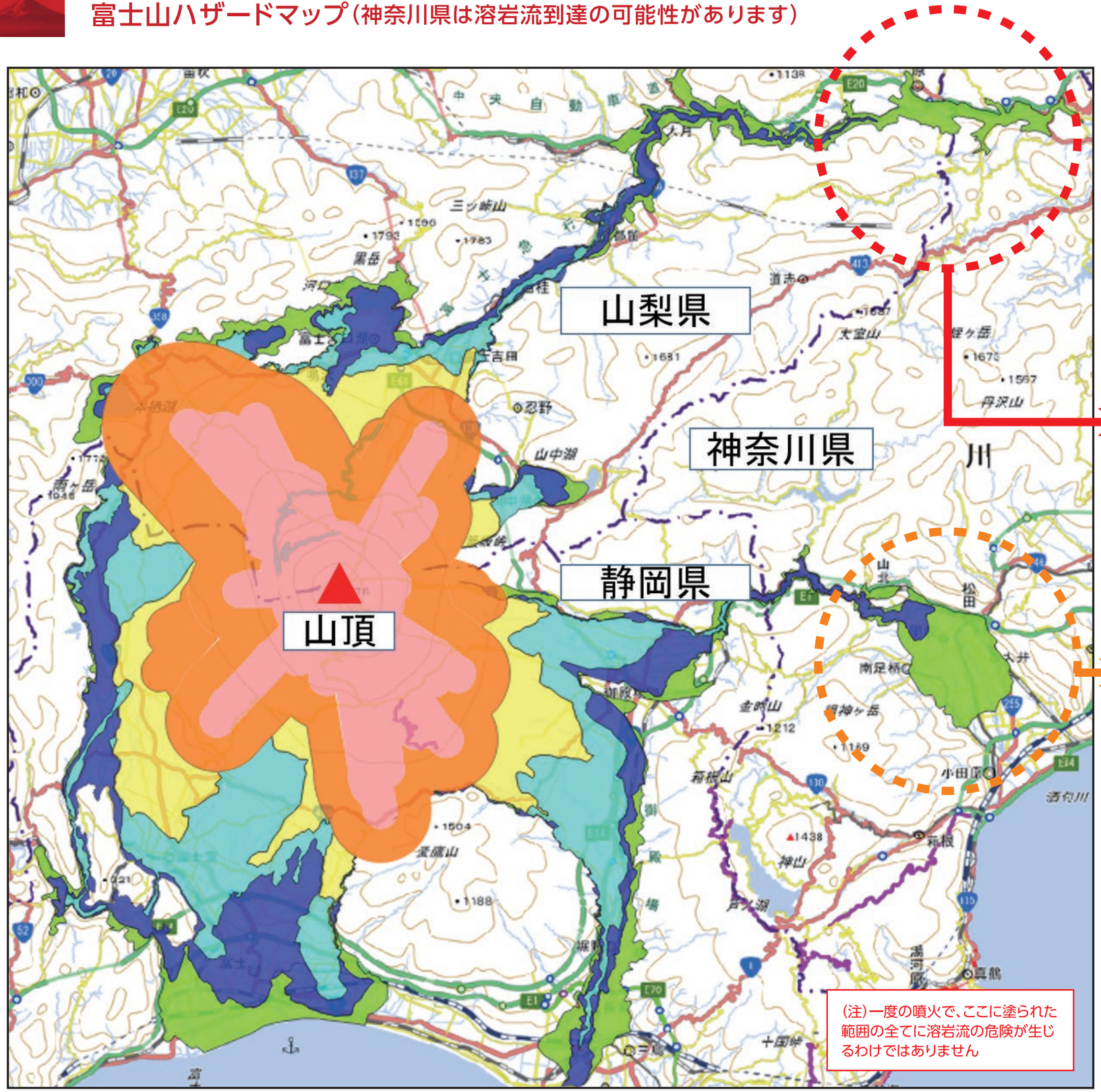
噴火予報及び警報の伝達について



火山活動状況に対応した火山防災情報の発表

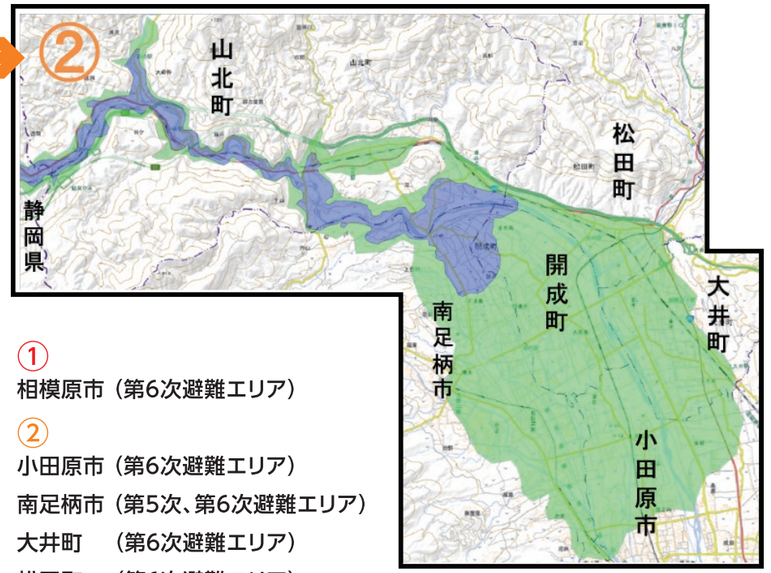
活動状況	発出される情報	概 要
噴火開始	噴火速報	登山者や周辺の住民に対して、火山が噴火したことを端的にいち早く伝えるための情報
地震急増 地殻変動	噴火警報	噴火に伴って生命に危険を及ぼす火山現象の発生が予想される場合やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に警戒が必要な範囲（生命に危険を及ぼす範囲）等を伝える情報
	火山の状況に関する解説情報（臨時）	噴火警報発表基準に現状達していないが、今後の活動の推移によっては噴火警報を発表する可能性があると判断した場合、または判断に迷う場合に、火山活動の状況や防災上警戒・注意すべき事項等を伝えるための情報
一時的な 地震増加	火山の状況に関する解説情報	現時点では、噴火警報を発表する可能性は低いが、火山活動に変化がみられるなど、火山活動の状況を伝える必要があると判断した場合に、適時発表する情報

富士山ハザードマップ（神奈川県は溶岩流到達の可能性があります）



	噴火する可能性のある範囲	（第1次避難エリア）
	火砕流等、大きな噴石、融雪型火山泥流	（第2次避難エリア）
	溶岩流が3時間で到達する可能性のある範囲	（第3次避難エリア）
	溶岩流が3時間～24時間で到達する可能性のある範囲	（第4次避難エリア）
	溶岩流が24時間～7日間で到達する可能性のある範囲	**（第5次避難エリア）**
	溶岩流が7日間～57日間で到達する可能性のある範囲	**（第6次避難エリア）**

神奈川県内は第5次、第6次避難エリアのみ
（溶岩流到達時間は、噴火開始後24時間以上）



①
相模原市（第6次避難エリア）

②
小田原市（第6次避難エリア）
南足柄市（第5次、第6次避難エリア）
大井町　（第6次避難エリア）
松田町　（第6次避難エリア）
山北町　（第5次、第6次避難エリア）
開成町　（第5次、第6次避難エリア）

火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合広い地域に火山灰 が降ります

「富士山火山防災マップ」（内閣府 富士山火山防災協議会）から引用

風向きや噴火の規模、火山からの距離によって火山灰の厚さは変わります。最大級の噴火の場合、神奈川県内では全域で2cm以上、県西部では**30cm以上に達する可能性があります。**

降灰があると

■**30cm以上**：火山灰の重さによっては、木造家屋が 倒壊するおそれがあります。
30cm以上の降灰がありましたら、上に2階部分がある場合は、1階の部屋での生活や、降灰の少ない地域や堅牢な建物への避難を考えてください。

■**10cm**：雨（1時間あたり10mm）が降ると川や谷筋で土石流 が発生しやすくなります。
雨が降ったら、川などに近寄らないようにしましょう。

火山噴火に備えておくもの

■避難の時の持ち出し品 普段から防災用具をチェックし備えましょう

- □ ヘルメット
- □ 衣類
- □ 雨具類
- □ 通帳・印鑑・カード
- □ 乳幼児品
- □ 懐中電灯・ロウソク
- □ マスク
- □ 水・非常食
- □ 防寒具類
- □ 毛布・タオル
- □ 介護用品
- □ 現金・貴重品
- □ ゴーグル
- □ 常備薬
- □ 携帯ラジオ
- □ 電池・ライター
- □ 救急用品
- □ 携帯用トイレ
- □ その他

■ローリングストック
日頃から自宅で利用しているものを少し多めに備えることで、災害時に自宅で当面生活することが可能となります。

出典:農林水産省Webサイト
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/foodstock/chapter02.html

■フェーズフリー品
「日常時」と「非常時」という2つのフェーズをフリーにする、日常時の生活で活用できるのはもちろん、非常時にも役に立つ商品を取り入れる考え方があります。

避難する場合には以下に注意しましょう

1 気象庁が発表する火山情報に注意しましょう。
2 デマやうわさに惑わされないようにしましょう。
3 テレビやニュース、防災無線などを聞いて正しい情報を得ましょう。
4 避難指示があった場合は従いましょう。

■忘れていませんか?

1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
2 貴重品は忘れず持参しましょう。
3 非常持ち出し品を確認しましょう。
4 外出中の家族のため、避難先を書いたメモを残しましょう。

■避難先への移動中は・・・

1 市町村役場や消防団などの指示に従い、落ち着いて行動しましょう。
2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。
3 小石が降ってくることがあるので、ヘルメットなどで頭を守りましょう。
また、火山灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。